

『旧日本史A』，『旧日本史B』

問題作成部会の見解

『旧日本史A』

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図及び自己評価等

学習指導要領が重視する思考力・判断力・表現力等を問う問題を，バランスよく出題することができた。基礎的な知識を問う問題から諸資料を活用して考える問題まで，高校段階における学習達成度をはかる問題として適切であったと評価できる。

第1問 学習指導要領日本史A 2 内容(2)「開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向について，相互の関連を重視して考察させる」及び(3)「第二次世界大戦後の政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向について，現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる」について，「国会議事堂の歴史」というテーマに関する会話文を掲げ，明治期から昭和戦後期までの政治・外交・社会に関する基本的事項の理解や史料の読解力を問うことをねらいとした。

問1は，帝国議会が開設される契機となった明治十四年の政変について，基本的な事項が理解できているのか問うた。問2は，帝国議会の議場に関する史料を題材として，当該期の政治状況に関する知識を用いながら，史料などを正しく読み取れるか，あわせて人物の基礎的知識も問うた。問3は，衆議院議員の職業に関する表の読解を通じて，初期議会期の政治状況を的確に把握できるかを問うた。問4は，日清戦争前後の政治・外交の状況について，正しく理解できているのかを問うた。問5は，近代日本の大きな政治変動である第一次及び第二次護憲運動について，正しく理解できているのかを問うた。問6は，昭和戦前期の軍部の台頭について，正しく理解できているのかを問うた。問7は，安保闘争に関する史料を題材として，当時，新安保に反対した人たちの考え方がどのようなものであったのかが読み取れるか，あわせて安保改正の内容を正しく理解できているのかを問うた。

議会政治の成立と発展という，現代にも通じるテーマに関して，今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるような，資料を積極的に活用する出題を心掛けたい。

第2問 学習指導要領日本史A 2 内容(2)アのうち「(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出，文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容，自由民権運動と立憲体制の成立に着目して，開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」という点を踏まえ，幕末・明治初期の国内改革や対外政策に関する知識と

理解を確認し、史料や図を用いた、分析的思考力を問うことをねらいとした。

問1は、版籍奉還を上表した4藩に関して、各藩の幕末期の動向及び各藩の人物の幕末から明治初期の動向から、4藩に対する知識・理解を問うた。問2は、廃藩置県から琉球処分までの間、明治新政府が近代国家を形成していく過程で起きた出来事について問うた。問3は、木戸孝允の書簡と国家構想に関する図を用いて、明治政府に関わった人物の国家構想について問うた。問4は、琉球王国（琉球藩）と新政府のやりとりを記した史料を用いて、沖縄県設置に至る過程について問うた。

版籍奉還と廃藩置県という受験者が必ず学ぶテーマに関して、多様な史料や図の読み取りを通して、受験者の基本的な知識を始め、思考力や判断力についても問うことができた。

第3問 学習指導要領日本史A2内容(2)ア(ア)の「欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立」に着目して、明治政府の法令を軸にして出題した。また学習指導要領日本史A2内容(2)イ(イ)の「学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる」に関して、大衆生活や、近代社会において大衆生活を支える機能を果たした質屋業を軸として出題した。日本の内政や文化に関わる様々な史資料の読み取りを通じて、学習指導要領日本史A2内容(1)にいう「歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる」という観点を意識させることをねらいとした。

問1は、明治初期の政府の政策のうち法令・制度について問うた。問2は、幕末・明治期の産業政策に関する知識と、それが行われた地域を結び付けて考察する力を問うた。問3は、松方財政前後における社会経済状況について歴史的事象を時系列的に捉える力を問うた。問4は、明治期における出版物を中心に、文化史に関する知識を問うた。問5は、史料を正確に読み取り、近代の経済史の知識と結び付けて考察する力を問うた。問6は、史料や図表の内容を正確に読み取り、それが意味することについて考察する力を問うた。問7は、1890年代から1930年代に関する民衆生活を、政治史・社会経済史・文化史の知識と結び付けて考察する力を問うた。

今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問い、さまざまな資料の積極的活用を促す出題を心掛けていきたい。

第4問 学習指導要領日本史A2内容(2)イ(イ)「諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる」及び(3)「第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる」を踏まえて出題した。リード文では総合雑誌・経済雑誌・出版の歴史を取り上げ、大正期から戦後にかけての政治・外交や社会・文化に関する基本的事項の理解や史料の読解力を問うことをねらいとした。

問1は、大正デモクラシーの意味を正確に理解しているかを問うた。問2は、明治末期から昭和戦後にかけて発生した社会主義に関する出来事を理解しているのかを問うた。問3は、史料読解力をみることに加えて、ワシントン会議の内容と時代背景を理解しているのかを問うた。問4は、日中戦争・太平洋戦争に関する国際関係についての知識・理解を問うた。問5は、太平洋戦争中の外交・政治についての知識・理解を問うた。問6は、史料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができるかを問うた。問7は、敗戦後の社会と出版文化の関係について正確に理解しているのかを問うた。

近現代の出版と文化の関連などについて、史料やメモを活用しながら受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問える問題を出題することができた。

第5問 学習指導要領日本史A 2 内容(3)「第二次世界大戦後の政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向について，現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる」に関連して，戦後の経済，外交，安全保障に関する保革対立を示す史資料を基に，戦前から戦後にかけての政党を中心とする政治史，及び経済環境についての基礎的事項の理解や，史資料の読解力を問うことをねらいとした。

問1は，日米開戦までの政治について問うた。問2は，GHQの占領政策について問うた。問3は，史資料を基に，財閥解体をめぐるGHQの政策と日本社会の反応を問うた。問4は，独立回復後の政治について問うた。問5は，史料を基に，講和及び日米安保をめぐる日本社会党の分裂と統一を問うた。問6は，戦後日本の平和運動について問うた。問7は，占領期の政策と，占領期以後も続く政党間対立に関しての全体像を問うた。

今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるような，資料を積極的に活用する出題を心掛けたい。

3 ま と め

本部会は従来から，作問上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく，標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ，「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 『旧日本史B』との共通問題について，難易度に一層配慮する。

今後，『旧日本史A』と『旧日本史B』はなくなるが，これまでの知見の蓄積を活用しつつ，ご指摘いただいたことも踏まえて，新課程の問題作成につなげていきたい。

『旧日本史B』

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図、解答結果及び自己評価等

学習指導要領が重視する思考力・判断力・表現力等を問う問題を、バランスよく出題することができた。基礎的な知識を問う問題から諸資料を活用して考える問題まで、高校段階における学習達成度をはかる問題として適切であったと評価できる。

第1問 学習指導要領日本史B 2 内容(2)ウのうち「日本の諸地域の動向」と「日明貿易など東アジア世界との関係」及び「武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景」、そして(2)アの「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」を踏まえ、島根県益田市を事例に地域の歴史に関する学習の場面を取り上げ、知識・理解やグラフ・絵図・史料を読み解く技術を問い、益田市にゆかりのある人物に関係する文化、戦国時代から江戸時代の鉱山業、江戸時代の藩の専売制、益田川河口域の中世港町の盛衰とその対外的背景、中世・近世における高津川河口域の港の様相、近代の鉄道と海運業について考察する設問を用意して、関連的・分析的思考力を問うことを企図した。難易度については、おおむね標準的であった。

問1は、柿本人麻呂の歌が収められた歌集と雪舟の作品について、知識・理解を問う問題。

問2は、戦国時代から江戸時代の鉱山業について、知識・理解と関連的思考力を問う問題。問

3は、江戸時代の藩の専売制について、知識・理解を問う問題。問4は、沖手遺跡・中須東原遺

跡・中須西原遺跡から出土した中世の輸入陶磁器量の推移とその背景にある対外関係について、

知識・理解と分析的思考力を問う問題。問5は、江戸時代の高津川河口域を描いた絵図、及び

15世紀半ばの高津の風景と13世紀前半の高津の港をめぐる荘園領主と地頭の対立を記した史料

から、それぞれの内容について分析的思考力を問う問題。問6は、大正期の鉄道と海運業につ

いて、関連的思考力を問う問題。

身近な景観から歴史的な課題を浮き上がらせることで、受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問える出題形式を試みることができた。

第2問 学習指導要領日本史B 2 内容(1)「原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて作問した。

アのうち「資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解

させ」ること、イのうち「古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察

させる」ことを目的として、奈良時代から平安時代にかけての国司と郡司との関係や地方行政

の変化、その背景となる各時期の政治・社会・文化のあり方について、古代日本に関する基本

的な知識を踏まえつつ、分析的・判断的思考力を問うことをねらいとした。難易度については、

おおむね標準的であった。

問1は、奈良時代の郡司と中央との関係について、正倉院文書の「他田日奉部直神護解」を用いながら、知識・理解と史料読解による分析的思考力を問うた。問2は、奈良時代の藤原氏の動向と政治史に関する知識・理解と関連的思考力を問うた。問3は、奈良時代の文化（天平文化）に関して、弘仁・貞観文化との比較や両文化の代表的作品についての知識・理解と関連的思考力を問うた。問4は、平安時代初期の郡司に関して、桓武天皇期の政策を踏まえつつ、知識・理解を問うた。問5は、「尾張国郡司百姓等解」を用いながら、10世紀の地方社会における国司と郡司との関係や、政府による地方政策の変化について、知識・理解と分析的思考力を問うた。

日本古代における国司と郡司との関係や地方行政の変化というテーマに沿った問いとして、多様な出題形式を試みる事ができた。

第3問 学習指導要領日本史B 1目標に示された「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察」を意識するなか、2内容(2)アのうち、「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察する」、そして(2)イのうち「仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について考察させる」を踏まえて、武家政権と宗教勢力との関係について学習する場面を取り上げ、知識・理解と分析力、史料を読み解く力を問い、さらに学習のまとめとして、武家政権の仏教諸宗派に対する基本姿勢を考察する設問を用意して、関連的・判断的思考力を問うた。難易度については、おおむね標準的であった。

問1は、鎌倉幕府が帰依した禅律僧とその事績について、知識・理解を問うた。問2は、室町幕府が寺社勢力の權益を保護する側面があったことを示唆するための出題で、室町幕府の座商人保護政策と寺社勢力との関係について、分析的・関連的思考力を問うた。問3は、武家政権と宗教勢力との軍事衝突を示す史料とその事件が起こった場所について、分析的・関連的思考力を問うた。問4は、豊臣政権が伴天連追放令を出した背景とその内容について、知識・理解、分析的思考力を問うた。問5は、中世後期に勢力を拡大した浄土真宗（本願寺）と信者の結び付きのあり方について、知識・理解、関連的・判断的思考力を問うた。

今後も受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問えるように、資料を積極的に活用するなどの出題を心掛けたい。

第4問 学習指導要領日本史B 2内容2(3)イのうち「幕藩体制下の政治・経済基盤」や「近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる」、ウのうち「幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる」を踏まえ、近世の政治・経済・社会に関する総合的理解と、分析的・判断的思考力を問うことをねらいとした。難易度については、おおむね標準的であった。

問1は、江戸幕府の財政政策に関する知識・理解を問うた。問2は、近世の政治に関する知識を問うとともに、史料を読解して、当時の儒学者が幕藩体制をどのように理解していたかを考察する分析的思考力を問うた。問3は、近世の政治・交通に関する知識・理解と、図の描写を読み解く分析的思考力を問うた。問4は、近世の政治に関する知識を問うとともに、史料を読解して、江戸の都市社会の変化について考察する分析的思考力を問うた。問5は、近世の政治・経済に関する知識・理解をもとに、江戸時代の幕府と大名との関係について、判断的思考を問うた。

参勤交代という受験者にとって親しみのあるテーマ設定のもと、多様な史料や図の読み取りを通して、受験者の思考力・判断力・表現力等を適切に問う事ができた。

第5問 学習指導要領日本史B 2 内容(4)アのうち「開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる」という点を踏まえ、幕末・明治初期の国内改革や対外政策に関する知識と理解を確認し、史料や図を用いた分析的思考力を問うことをねらいとした。難易度については、おおむね標準的であった。

問1は、版籍奉還を上表した4藩に関して、各藩の幕末期の動向、及び各藩の人物の幕末から明治初期の動向から、4藩に対する知識と理解を問うた。問2は、廃藩置県から琉球処分までの間、明治新政府が近代国家を形成していく過程で起きた出来事について問うた。問3は、木戸孝允の書簡と国家構想に関する図を用いて、明治政府に関わった人物の国家構想について問うた。問4は、琉球王国（琉球藩）と新政府のやりとりを記した史料を用いて、沖縄県設置に至る過程について問うた。

版籍奉還と廃藩置県という受験者が必ず学ぶテーマに関して、多様な史料や図の読み取りを通して、受験生の基本的な知識を始め、思考力や判断力についても問うことができた。

第6問 学習指導要領日本史B 2 内容(5)イ「国際社会の中の日本の立場に着目して、第一次世界大戦前後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察させる」、ウ「国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦とのかかわりについて考察させる」及び(6)ア「占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる」、ウ「社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活などについて、適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、考えを論述する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる」を踏まえて出題した。リード文では総合雑誌・経済雑誌・出版の歴史を取り上げ、大正期から戦後にかけての、政治・外交や社会・文化に関する基本的事項の理解や史料の読解力を問うことをねらいとした。難易度については、おおむね標準的であった。

問1は、大正デモクラシーの意味を正確に理解しているかを問うた。問2は、明治末期から昭和戦後にかけて発生した社会主義に関する出来事を理解しているのかを問うた。問3は、史料読解力をみることに加えて、ワシントン会議の内容と時代背景を理解しているのかを問うた。問4は、日中戦争・太平洋戦争に関する国際関係についての知識・理解を問うた。問5は、太平洋戦争中の外交・政治についての知識・理解を問うた。問6は、史料から読み取った情報と歴史的事実との関わりを類推することができるかを問うた。問7は、敗戦後の社会と出版文化の関係について正確に理解しているのかを問うた。

近現代の出版と文化の関連などについて、史料やメモを活用しながら受験者の思考力・判断力・知識などを適切に問える問題を出題することができた。

3 ま と め

本部会は従来から、作問上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 『旧日本史B』との共通問題について、難易度に一層配慮する。

今後、『旧日本史A』と『旧日本史B』はなくなるが、これまでの知見の蓄積を活用しつつ、ご指摘いただいたことも踏まえて、新課程の問題作成につなげていきたい。